

子どもの貧困対策 全国 47 都道府県キャラバン in 富山 報告書



2017年7月9日（日）、子どもの貧困対策全国47都道府県キャラバン in 富山（以下、全国キャラバン in 富山）が富山県と富山国際大学 SSW・BBS 研究会との共催で、富山大学（五福キャンパス）学生会館ホールで開催されました。会場には、第一部 116 人、第二部 77 人、合計 128 人の方がお越しくださいました。



マスコミ各社の取材報道は、これまでのキャラバンで一番多く、テレビは NHK、北日本放送、富山テレビ、チューリップテレビ4社が、当日のニュースで放送しました。新聞は、朝日新聞、毎日新聞、北日本新聞、富山新聞、北陸中日新聞5社が、翌朝刊で開催記事を掲載しました。

午前中の第一部は、小河光治・代表理事のあいさつに続いて、共催者代表として石井隆一・富山県知事の代理として山崎康至・副知事からごあいさつをいただきました。また田畑裕明・衆議院議員から、来賓のごあいさつをいただきました。第一部で「今、富山の子ども現状は」をテーマに、パネリストには、柴田正孝・富山県子ども支援課青少年係長、竹脇直子・富山県教育委員会カウンセリング指導員、山岸親史・児童自立支援施設「富山県立富山学園」前園長、山岡真奈実・富山国際大学 SSW・BBS 研究会代表（同大学4年）が登壇し、同研究会 OB の

開上滉己さんがコーディネーターを務めました。行政・教育・福祉・子どもに近い大学生、それぞれの立場から発表いただいた後、司会の木戸寛捺・あすのば学生理事（早稲田大学3年）も加わり、パネルディスカッションを行いました。「子どもだけでなく親も被害者。福祉や学校関係者と連携し、地域のキーパーソンによって子どもの人生は変わる」など活発な意見が交わされました。



午後の第二部では、富山国際大学4年の大崎はるきさんが「富山の子ども食堂」の報告を行い、その後、10グループで、分科会「今からできる！子どもの貧困対策」を話し合いました。各グループのファシリテーターは、富山国際大学生、富山大学生、あすのばの大学生が務めました。分科会後に、各グループの発表を行い、意見交換しました。

参加者からは、「貧困という視点から、すべての子どもが最善の利益を保障される社会を作るにはどうすべきか改めて考える機会となりました。“心の貧困”ということをごく考えさせられ、『なんとかしなければ』と思いました。行政支援を求めますが、どうしても“たてわり”という印象を受けます。日本全体が日本の子どもを育てるという仕組みがあればいいと感じています。(40代女性)。「自分の『やりたい』ことが守られていることは、とても幸せであると感じたが、全ての子どもたちにとって『やりたい』と言えること、『やりたい』ことができることは当たり前であるべきだと感じました。(10代女性)。「子どもの貧困は、貧困世帯にある本人が、世間に伝える(見せる)ことができないため、その実態が把握できず、情報も伝わらず、深刻なものとして感じられていない。啓発活動等が必要で、関係機関等との連携につなげていく必要がある。(50代男性)。「今までの私の中の貧困のイメージよりも『貧困』というものはさらに深いものなのだと思います。違った分野からの貧困に対する視点、学生、実際に経験した人の話を聞くこととのできる貴重な時間でした。福祉、行政、教育の分野から貧困について捉え、語り合い、より深い学びが生まれることが今後も大切になると感じました。キャラバンなどが今後も引き継がれていくべきだと思います。(20代女性)」などの感想が寄せられました。

今回の全国キャラバン in 富山は、富山国際大学4年生を中心に、富山大学生が加わり準備を行って、子どもの貧困問題に携わっている方々・団体の協力で開催することができました。後援、助成くださいましたみなさま、ご参加いただきましたみなさまに心からお礼申し上げます。

【子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in 富山】

日 時：2017年7月9日(日) 第一部 10時～12時 第二部 13時～16時

場 所：富山大学(五福キャンパス)学生会館ホール

主 催：公益財団法人あすのば

共 催：富山県、富山国際大学 SSW・BBS 研究会

後 援：内閣府、朝日町・射水市・魚津市・宇奈月自立塾・オタヤこども食堂・小矢部市・上市町・黒部市・高岡市・立山町・砺波市・富山県教育委員会・社会福祉法人富山県社会福祉協議会・富山市・滑川市・南砺市・入善町・氷見市・フードバンクとやま・舟橋村

助 成：公益財団法人キリン福祉財団

参加者：第一部 116人 第二部 77人 合計 128人が参加